

## 2024\_1213「沈む”真っ赤な”金星（動画）」日々の理科 3781号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

地球から見て、目視または簡易な機器で観測できる、岩石の天体の中で、その表面を観察できる天体は、「月」と「火星」、それにぎりぎり「水星」の3つだけです。金星が非常に明るく白く見えるのは、その表面が白いからではなく、惑星を常に取り巻いている「猛毒の雲」がアルベド効果（太陽光の反射率）を高めているからです。金星の表面を観測するには、金星に着陸するか、雲を透かして観測できる特殊な機器が必要です。

金星は見た目に明るく白い天体ですが、地平線に近い場合はちがいます。真っ赤に見えるのです。これは金星に限ったことではなく、月も太陽も、それに「カノープス（りゅうこつ座の白い一等星）」や「シリウス（おおいぬ座の青白い一等星）」も、地平線付近では赤っぽく見えます。これは、天体そのものが赤くなったわけではなく、地球の大気の影響です。

先日、真っ赤に染まった金星が、遠くのビルの屋上に沈む「真っ赤な金星」を観測しました。天体写真儀「Seestar」の「風景モード（超望遠の固定撮影モード）」で撮影しました。説明しなければ、「火星」の動きにしか見えません。

（2024年11月下旬／文京区・お茶の水女子大学構内／Seestarの風景モードで撮影）

